

仕上げみがきに対する 保護者の認識についての現状

阿久津和子¹⁾ 柿沼澄子²⁾ 斎藤照代¹⁾

斎藤恵子¹⁾ 王麗華¹⁾ 降旗幹子¹⁾ 落合佳子¹⁾

桑野美夏子¹⁾ 柴田恵子¹⁾

1) 国際医療福祉大学 2) 元塩谷町保健福祉課

今回発表の演題について開示すべきCOIはありません

はじめに

1歳6か月児、3歳児歯科健康診査では、むし歯の好発時期である幼児を中心に口腔診査・保健指導などが行われている。特に、3歳児歯科健康診査の結果では、1人平均むし歯数は減少傾向を示している。その一方で永久歯が生えてから比較的短時間にむし歯が増加していることが報告されている。このようなむし歯予防に効果があるとされているものに、仕上げ磨きがある。保護者による仕上げみがきに関する研究の蓄積は少ない。そこで本研究は、仕上げみがきに対する保護者の認識についての現状を明らかにすることを目的とした。

目的

仕上げみがきに対する保護者の認識についての現状を明らかにすることを目的とした

倫理的配慮

国際医療福祉大学倫理審査の承認を得て実施し対象者に研究趣旨、研究参加への自由意志の保障、データ管理等について文書にて説明、無記名にて質問紙の回収をした。

用語の定義

仕上げみがき：保護者が子どもの歯をみがくことによってむし歯などを予防しようとする事

方法

- 1.対象者：年長児保護者
- 2.調査時期：2016年6月
- 3.調査方法：保育園において調査票を配布
- 4.データ解析：SPSS23.0を使用し、
Fisherの直接法を行った

概念枠組み

むし歯の原因



本調査・分析

仕上げみがきをしている

- ・仕上げみがき指導の有無
- ・仕上げみがきをほめられた経験
- ・歯科医へ行くことの抵抗感
- ・主に仕上げみがきをする人以外に仕上げみがきをする人がいるか
- ・染め出しの経験
- ・フッ素塗布の経験 など

仕上げみがきをしていない

結果

分析対象：60名（男児：31名、女児29名）回収率84.5%

表 1 基本情報（抜粋）

	項目	人	%
回答者	母親	57	95.0
	父親	3	5.0
児の性別	男	31	51.7
	女	29	48.3
出生順位	第1子	26	43.3
	第2子	23	38.3
	第3子	8	13.3
	第4子	2	3.3
	無回答	1	1.7

結果

表2 仕上げみがきの有無

仕上げみがきをしている	53人 (88.3%)	毎日 している	39人 (73.6%)
		毎日 していない	14人 (26.4%)
仕上げみがきをしていない	7人 (11.7%)		

○仕上げみがきを毎日しない理由

・「子どもがみがくから」が一番多く、「子どもが仕上げみがきを嫌がるから」は2名であった。

結果

表2 仕上げみがきの有無との関係

項目		仕上げみがき					
		する n=53		しない n=7		合計 (人)	Fisher
		人	%	人	%		
歯科医へ行くことへの 抵抗	あり	1	1.9	4	57.1	5	.000 *
	なし	52	98.1	3	42.9	55	
主に仕上げみがきをする 人以外に仕上げみがき をする人	いる	40	75.5	1	14.3	41	.003 *
	いない	13	24.5	6	85.7	19	

考察

○保護者は、「子どもがみがくから仕上げみがきは必要ない」と認識していることが推察された。

○歯科受診に対する認識の変容により仕上げみがきの実施への変容が予測される。

⇒保護者による仕上げみがきの実施には、技術より仕上げみがきに対する認識への支援が必要であると考えられる。

今後、保健師による歯科保健への支援方法を検討する必要がある。